5月 自然観察会 四季の森里山研究会 担当: 伊藤, 中島, 渋谷, 上野 <里山の雑木林> ~ "薫風をうけて散策 若葉の下で深呼吸"

※里山(里地)とは

集落と雑木林・農地などが一体となった自然環境です。里山には広葉樹とくに <クヌギ><コナラ>を中心に植えられ私たちの祖先は上手に利用し生活してきました。 雑木林は15年から20年単位で伐採され燃料(薪・炭)にホダ木を利用して食料(椎茸) を作り、落葉はかき集めて堆肥として畑などに施しました。

雑木林の側には、竹林がありく竹>は籠や農業機材に利用されてきました。

また、柿・栗なども植えられ、果実も自然の恵みとして大切に育てられました。

雑木林は、定期的に伐採され、毎年の下刈り・落ち葉かきにより林床が豊かに保たれていることで多様な、植物や生き物の生息地となっています。

- ※ 雑木林の管理 ~ 下草刈り →落ち葉かき →伐 採 →萌芽更新 →もやわけ (芽かき)
 - ◎ 萌芽更新 ~ 伐採のあと切り株から沢山の新しい芽が伸びてきます。この芽を育て15年から20年後に再び伐採を繰り返すことで雑木林を維持する方法を<萌芽更新>と呼びます。
 - **もやわけ** ~ 芽が出て2~3年たった頃、効率よく木を育てるために勢いのある芽を2~3本 残し、他のものを間引く作業です。
 - 1) 里山の雑木林

<メモ>	 	 	

2) 里山と生物多様性

<メモ>			

3) 里山の目立たない花

< メモ >

4) 整備された雑木林に咲く花













)